

人種と需用品

伊犁の輸出入額

喀什噶爾の輸出入額

露國よりの入貨額

印度よりの入貨額

我國品の歡迎

纏頭回、哈薩克は、多く露貨を用ひ、蒙古族、漢回、漢、滿人は、概して天津よりの貨物を需用するの傾向あり。

毎年伊犁のみに輸入する露貨、即ち反物雜貨は、其總價格四百萬圓内外に上り、又伊犁より露國に輸出する物貨は、羊毛四百萬斤、羊二十萬頭、牛馬各一二萬頭、其他茶^(磚)等、其の價額亦少なからず。

毎年喀什噶爾に輸入する露貨^(右)は、約百五十萬圓^(日露戰爭前は三百五十萬圓に達せしと云ふ)にして、又喀什噶爾より、露國に輸出するもの棉花、羊毛、羊を大宗とし、其の價格約二百五十萬圓を下らずと云ふ。

露國よりの入貨は日露戰爭前に比すれば約四割方減少せりと云ふ。統計なき爲め、其の真相を知る能はざるも、全省の入貨額は大約八百萬圓位なるべし。

印度よりの入貨は多からずと雖も、聞く所に據れば、毎年約一千五六百の馱馬、ヒマラヤ、崑崙の高嶺を踰越往復しつゝ、在りと云ふ。以て輸出入品集散の一斑を推知するに足る。

一般住民は、日本の物貨を歡迎すること甚だしく、天津入貨の良品を見れば、直に